

エンジニアパーク

Engineer *Ring* Park



山内 繁樹 水産部門（水産土木） 勤務先：北海道立中央水産試験場

「海水は資源である」私が35年間、色々な局面で水産業に携わってきた感慨です。昭和49年に大学を卒業して、ある大手商社がインドネシアに合弁で設立したエビ・トロール漁業の会社に入りました。

そのとき聞かされた社長の話「もうすぐ、200海里時代になる。外国まで出かけて獲ってくる遠洋漁業は出来なくなる。これに対応するためには、外国で沿岸漁業をして魚を輸入すればいい」

200海里問題が起こる昭和52年、私は北海道庁に水産の技術吏員として採用されました。以来、この問題に苦悩する北海道漁業とともに歩むこととなります。北海道漁業は、未だ、200海里問題の現実に向き合いつつながら苦悩を続けています。立場は違うのですが、昭和52年以前、既に問題を見通してその対策を打ってきた当時の商社の先見性に今更ながら驚嘆の目を向けてしまいます。

沿岸漁業の振興に携わりながら、北海道漁業の将来は何処にあるのかを考えています。

現在、私は道立中央水産試験場水産工学室に勤務しています。水産工学室は生物にとっての最適環境を明らかにして、その生物環境の創造技術を開発して地域の生産を高めることを目標としています。大漁に沸いた沿岸地域社会を取り戻すのは、私たちが携わる「海からものを作り出す」技術を確立することと確信しています。「海水を資源に!!」を目標に一技術者として何が出来るかを今更ながら考えていきたいと思っています。



次号は、田中輝美さん（水産部門）



武智 弘明 建設／上下水道部門

勤務先：北海道建設部まちづくり局都市環境課

4月に課が統合され、肩書きは変わりましたが、机は2m移動したのみで、仕事も従前どおり公園と下水道を担当しています。が、

本道の下水道は、維持管理・経営の時代へ突入しました。かつて担当した施設も改築更新の時期を迎え、想像していなかった人口減少を迎えたとはいえ、ライフサイクルコストが眼前で検証されることに複雑な想いです。ニュースとしては、直投型ディスポーザーの普及が進みつつあることでしょうか。神学論争もされていますが、10年後には多くの家庭の台所に、当たり前のように収まり、循環型社会に役立っていることと思います。

公園での課題は目標付けの難しさです。現代人の生活には不可欠ですが、量も質も絶対真の答えはなく、ニーズも多様であります。あるときはわが青春の如きプレーパークが、あるときは近未来のインプレが求められるなど、掘り下げれば掘り下げるほど公園は複雑系そのものです。

関連してGIH 2008という運動を紹介します。男社会が議論を続けている間に、元気な女性が、生き活きと「オープンガーデン」や「花を活かしたまちづくりのネットワーク化」を、フィールドで進めています。再来年は全道各地にGIHの花が盛り上がる年となりますでしょう。どうぞ注目を！

実は、建設部門の面接試験の直前にアキレス腱を断裂し、松葉杖で試験官の同情を引いたので首尾よく合格できました。その時に東京で助けてもらった、同僚の岩井さんへバトンタッチします。



次号は、岩井健治さん（建設部門）